

横浜市小学校社会科研究会 3学年部会 研修会記録	令和3年 1月13日 横浜市小学校教育研究会 会長 相澤 昭宏 横浜市小学校社会科研究会 会長 梅田 比奈子 同 学年部長 岡村 伸一郎
	第5号

【提案日時】 12月 2日 (水)	講師 鳥山 真 先生 (横浜市立浦島小学校)
【会 場】 横浜市立平沼小学校	提案 権正 倫範 先生 (横浜市立美しが丘小学校)
	司会 池田 啓太 先生 (横浜市立本宿小学校)
	記録 塚越 美希 先生 (横浜市立矢向小学校)

授業者から

① **本気の学習問題を追及し、社会的事象の意味等に迫る授業づくり**

身近な公共施設について追及することで横浜市の移り変わりが見えてくる学習問題を設定した。横浜市の移り変わりを実感的にとらえるため、子どもたちにとって身近な美しが丘小学校の開港経緯を話し合う時間を本時に設けた。

【成果】

- ・ 第10時の単元を見通す学習問題について振り返る時間を設けたことで、既習事項のつながりの確認や、解決していること、未解決名ことの整理ができた。
- ・ 子どもたちに身近な場所を取り上げて学習を進めていくことで、本気の学習問題に向けてみんなが同じ土俵に立てるようにするのに有効だった。

② **児童の予想と見通しを大切にした単元づくりについて**

最初に提示した資料が土地利用図だったことが学習計画を立てる際に子供の中で思考が整理される良い要因となった。この導入から第一単元で扱った現在の土地利用図と明治のころの土地利用図を提示することで単元を見通す学習問題を成立させた。

【成果】

- ・ 二つの時代の土地利用図を比べたことで、子どもたちは第一単元での、学びを生かしながら問題意識をもって単元を見通す学習問題を成立させることができた。
- ・ 第一単元の学習内容と比較することで、着目する点が明確になり、次々の学習計画を立てる際にも有効であった。

【課題】

- ・ 土地利用図は情報量が多いため、着目する点を明確にしないと、読み取る視点がばらばらになってしまったり、何を読み取ればよいのか、わからなくなってしまうことがある。

※今回は手立てとして何がどのように変化しているかがわかりやすくなるような資料の工夫をしたが、どうだったか。(白地図にシール、白地図に色付けなど)

討議

- ・ 土地利用図 繰り返し使うことで、交通や広がりなどと関連して見られたのでは。
- ・ 横浜市(抽象)→学校(身近な具体)→横浜市(抽象)の流れで学びが深められたのでよかった。

た。

- 単元を見通す学習問題についての振り返り→本時の流れでやることが多いが、急に資料が出てきたように感じる。もっとスムーズに流れる方法が他にないか。
- 単元を見通す学習問題の中に昭和40年代ではなく「美しができたころ」の様な子どもの言葉で時代を表すトピックが出てくるとよかったのではないか。
- 変化する時代が各学校によって違う。取り上げ方が地域によって違う。
- 最初、市の学習で現在の横浜市がどうなっているのかをしっかりと押さえる必要がある。
- 青葉区の難しさ→電車（横浜とつながっているようでそうでもない。身近とも言い難い）
- 学校の歴史は、子どもたちにとって一つの指針になる。自分の学校がどの時代にできたかを単元の中に組み込んでいくのも面白いのでは。
- 青葉区の学習に「団地」は人口増加に関わる重要なキーポイントになるのではないか。
- 青葉区の人口増が横浜市発展に大きくかかわっている。
- 問題が子どもたちに落ちていたかが難しいように感じた。
- 社会科の学び方の学びが子どもたちによく身についていた。
- 過去→現在→未来 という視点をもって学ぶ単元。青葉区の人口が減少していないという点に着目していけば、これからの魅力あるまちづくりまで考えていけるのではないか。

丸山台小学校 新井校長先生より

- 横浜市がどう変わったかが一番のポイント。単元構想図の人口土地利用は縦に並べたほうが子どもが関連付けしやすいのではないか。年表をつくっていく過程で積み重ねていけばそれ自体が振り返りになり、本気の学習問題につながるのではないか。

講師の先生より

- 本気の学習問題→子供たちの心が動く「なんでだろう、どうしてだろう、わからないな」がないと本気で追及したいというエネルギーにならない。
- 社会的事象の持つ意味に迫ることができる問題でないといけない。
- 歴史を学ぶ意味を考えなくてはいけない。過去に学び今を見て未来を考えるために学ぶ。これからどう生きていくか、事象と関わってこうという視点で見るようになる。
- 方向性を決めるぼんやりした問題→調べていくうちに焦点化ここで初めて追及していきたい問題ができているように思う。もう少し絞りたい。毎時間戻っていかないと単元を貫く学習問題にはならない。
- 美しが丘の街を追及していくと横浜市発展のモデルが見えてくる。鉄道、駅、町という一つの形が見えてくる。団地生活→電化製品への変化も見える。
- 横浜という大きな市をどうやって学習していくかを考えるらの課題。